

第16回ハンドベル世界大会（韓国、済州島）4日目 朝の祈り

『聖書』 旧約聖書 詩編 92章 2節～4節

いかに楽しいことでしょう 主に感謝をささげることは
いと高き神よ、御名をほめ歌い 朝ごとに、あなたの慈しみを
夜ごとに、あなたのまことを述べ伝えることは
十弦の琴に合わせ、豎琴に合わせ
琴の調べに合わせて。

『お話』

常に、人は正しい生き方や、正しい思いから道を外して、悪魔の誘いにまんまと引きずられてしまう傾向にあります。ですから、世の中に争いごとは絶えず起こっています。

しかし、人が互いに違っているというだけで争いが起こるとは考えられません。なぜなら、人は、国が違って、言葉や体つきが違っていても、共通の良いところを持っているのであって、互いに愛し合うことも出来るからです。ですから、それぞれが違っていることではなく、お互いに共通しているものに目を向けることが大切です。

たとえば、私達人間は誰でも自分の子や親を愛するように造られているでしょう。私達は子や親を愛したり、与えられた大自然の美しさや、音楽や芸術のような美しいものを愛したり、やさしい心愛することが出来ますね。神が私たちが愛し愛されるようにお造りになったということは、とても大切なことなのです。

チェリストのパブロ・カザルスは、1971年の国際平和デーでのコンサートのアンコールに応じて、「カタローニャでは、小鳥が Peace! peace! と歌うのですよ」と言って、カタローニャ地方のフォルクローレ「鳥の歌」を演奏しました。

記録映像を見ますと、”Peace! Peace-----!”と平和を祈るように唱えて、感極まった様子で演奏に入って行きました。故郷のメロディーに合わせて思わずうめくような声を漏らしながら演奏に没頭する様子がうかがえます。そこからは、平和を唱えるというだけではなく、その歌を歌い継いで来た故郷への思いが切々と伝わって来るのでした。それはまた、故郷の人々への思いと、神の愛されるこの世界と、そこに住む人々とを深く愛する思いが溢れ出て来るのでした。ピースと歌う鳥達を愛する思い、故郷や人々への深い愛が、ほとぼしり出るのでした。そして、聴くものに、言葉には尽くせない深い感銘を与えるのでした。

このように、音楽は、百万の言葉を使っても伝えることの出来ないものを、瞬時に伝えることが出来るものです。

たとえ言葉が通じ合わなくても、世界中のあらゆる人々と瞬時にして心を通わせる道具として、神様はこの素晴らしいものを用意して下さったのではないのでしょうか。これは、神からの尊い素晴らしい賜物なのです。

与えられている「ハンドベル」という素晴らしいものをおして得られる、心からの喜びや慰めを、多くの人々と共有したいものです。

私達が、演奏をするのは、それぞれのテクニックを見せつけることや、ほめ讃えられたいという思いよりも、即ち、自分の為ではなく、神からの素晴らしい贈り物、本当の愛という神から下された素晴らしい賜物を知っているものとして、真に美しいものを分かち合うなかで得られる心からの喜びや慰めを、多くの人々と分かち合うためではないでしょうか。

それが音楽を行なうものの姿勢であり、真の伝道者でもあるのでは無いでしょうか。信仰を持つとか持たないではなく、本当に美しいものを信じるものとして、真に心を癒し、慰めを与え、心からの喜びを伝えていくことが、平和の使者なのではないかと思うのです。

日本ハンドベル連盟の理事長：日野原重明氏が、この世界大会あてに送られたメッセージの締めくくりの文章『世界の平和は、愛によるほか生まれません。ハンドベルのひびきに愛をのせて、この世界大会を平和の祈りといたしましょう。』をご紹介します私のお薦めを閉じさせていただきます。

2014.8.8

阿部 望